

## 【前書き】

どうもゆうです！

こんにちは。

さて、今日はこの無料レポートのPDFで

「なぜ日本では団塊世代が(傾向として)金を持っていて

若者が貧しいのか」

ということについて考えて生きたいと思います。

それで、私ゆうは実際に派遣社員やアルバイトや契約社員というのを

転々としていた今流行の？いわゆる「非正規雇用」の一人でした。

その私が一応今はおそらく同世代の人たちよりはかなり

まあ資産はある程度築けるようになってきたわけです。

税金だけでも8桁いくようになるとは当時は思っていなかったわけですね。

それで、人脈もコネもまたお金も当時そこまでない、という状況で

そこから「どういう考え方で這い上がってくる必要があったのか」

ということをこのレポートで書いていきたいと思います。

もちろん、私はまだまだ途中でして、これからもっと頑張る必要があるのだけど  
その「過程の思考」として一応レポートという形式で残しておきたいと思いました。

頑張ってる人に参考になればな～ということと

また数年後に考え方をコロっと忘れないように自分のため、というのも

ありますが、人によっては役に立つ内容だと思うから

一応音声なんかもあるから見てみてくださいね！



なぜ日本では若者が貧乏で団塊世代が金を持ってるのか



さて、それで多くのお金を稼ぎたいのだと思います。

キレイゴト抜きでお金がないと遠出もできないし、ご飯も食べられない

というとても厳しい状況で私たちは生きているわけです。

それで「お金を稼ぐ」ということを考えるとき

どうしても考えないといけないのが、

「なぜ日本では団塊世代が金を持ってるのか」

ということだと思います。

これはもちろん色々な理由があると思います。

当時のような正社員雇用が当たり前でなくなってきたとか

当時のような経済成長率ではないとか、

新しい税金が多く導入されたとか、

そもそも体力が違うとか、

まあ色々考えられる点があります。

けど私が色々な国に行って自分で分かったんですが

「おそらく本質的な部分はここだな」ってところがあるんですね。  
それを今日は当たり前のことなんだけど、「認識」するためにも  
書きたいと思います。

それで、

私がよく言う言葉で「お金のボックス」という概念があるんだけど  
この概念がすごい重要なわけです。

多くの富裕層って人たちや準富裕層になった人たちってのは  
この「お金のボックス」を持ってるわけですね。

この「お金のボックス」ってのは何??

っていうと

それは昔

音声で録ったのでよかったら聞いてほしいです。

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

韓国のソクチョで録音した

「お金のボックスの話」

<http://fxgod.net/onsei/business/moneybox.mp3>

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

富裕層ってのはおそらくみんなこの「ボックス」を持ってるんですね。

いわゆる「そこにお金を投入したら(また少々の労力を投入したら)

そこで月利10%くらいでお金が増えるような仕組み」

ってのを私は「お金のボックス」と分かりやすく呼んでいます。

例えば「月利10%増えるボックス」があったとしたら

ここに消費に散財せず資金を投入していくわけです。

ちなみに資金を投入するだけじゃ不十分だから、

そこに「工夫」を加える必要があるんだけど、

ボックスのメンテナンスが必要なんだけど

とりあえずそうすると「お金が増えるボックス」ってのが

機能するわけです。

このメンテナンスというのは例えば

「FXで月利10%前後を安定して出せるスキル」というのが

お金のボックスの一つに当たるんだけど

このスキルというのも一応検証を定期的にしてメンテナンスしないと

いけないんですね。

そうしないとボックスの機能が月利10%から5%とかに下がっちゃうわけです。

だから「メンテナンス」という考え方を私はします。

それでイメージとしては月50万稼いでる人で

「月利10%増やせるお金が増えるボックス」があったとしたら

それはFXでもいいし株でもいいしネットビジネスでもいいけど

生活費を20万円にして、30万円をそのボックスに入れていく

わけですね。

そうするとその30万円は月利10%のボックスにいれれば

1年間で $10\% \times 12$ ヶ月で120%で大体1.2倍分増えるわけですね。

当初の30万円ってのがその後12ヶ月で倍の60万円以上にはなるわけです。

そのボックスの安定度が高ければ複利でまわすと

2.5倍くらいになります。

75万円くらいになるわけです。

これを毎月、毎月、繰り返していくわけですね。

そうすると **お金というのは数字概念で支配されますから**

当然のように増えていく、わけです。

このお金が「数字概念で支配される」というのが実は  
近代資本主義社会の特徴であってこれは物々交換の時代には  
なかったことであると思います。

物々交換ってのはこれは「あいまいさ」があって

例えば米1キロとバナナ2本くらいを交換するのかもしれませんが

今の現代だとここに「数字で」「米はいくら」「バナナはいくら」という感じで

数字で必ずその物質の値段ってのが厳密に表現されるわけです。

「数字」ってのは神学から来るのだけど、だから宗教性があるものなんだけど

この「数字」を使ってお金のシステムは支配されるわけです。

**が、実はここに脆弱性がある。**

これはまた後でかきたいと思います。

それで音声で私が言っていますが、

やはりお金を増やすために必要なのはこの

~~~~~  
「お金が増えるボックス」を持つことであるということなんです。  
~~~~~

そのためにFXだったら検証したりするわけですね。

ネットビジネスだったらテストしたりするわけですね。

要するに「お金が安定的に増えるボックス」を持つために

勉強するわけです。

んでこれをずーっと繰り返していくと

毎月上の事例だと30万円がボックスに投入されていって

それが月利10%で増えるわけだから

どんどん資産の数字は増えていくわけです。

例えば単発の30万円があったとして、これは

上に書いたように月利10%単利で回したとしたら

それは1年間で2倍くらいにはなるわけですが

が、そこに消費の節約、をいれて、それで残った資金を

ほとんどその「ボックス」に投入していくわけですね。

すると上記事例の場合、1ヶ月目の30万円、2ヶ月目のまた30万円の弾

3ヶ月目の30万円の弾、という感じでどんどんその「お金が増えるボックス構造」



にお金が投入されていってそれがそれぞれどんどん  
月利10%で毎月毎月、増えだすわけです。

これを「毎月毎月」もしくは「毎週毎週」繰り返していくわけですね。

入ってくる収益ってのをあまり消費せずにどんどん「お金が増えるボックス」  
に投入していくわけです。できればボックスも複数持って分散して。

そうすると大体3年から5年くらいでかなりの資産量になってきます。

これ私が実際に20代のころからやっていたことでして

自分で人柱でやっていて、本当にそうなるわけなんです。

それで、現代の日本人がなぜ貧乏か？というのを

この「お金のボックス論」で説明できるのだけど

それは「お金が増えるボックス」を多くの

現代日本人が持っていないから

なんですね。

これ、実は経済成長率がない、

低金利時代の今だからそうなるんです。

だから「ジャブジャブマネー金融緩和」で金利が下がってますでしょ？

ゼロ金利政策してますでしょ？

あれはどういうことか？っていうと政府の都合で

民衆が豊かになることを妨害されてるってことなんです。

が、誰も文句言わないですね。多くの方はこれに気づいてはいるのだけど

漠然と気づいていて、言葉として認識していないからいまいち

「なぜ貧乏になるんだろう」ってのが分からないわけです。

実は昔の日本は銀行預金だけで定期で7%、10%ついた

時代がありました。年利で。

信じられないですよ？今はゼロ金利時代で100万円預けても

ほとんどお金は増えないというか、むしろATMの手数料考えたら

マイナスでしょう。

だから多くの人にとって銀行は「お金を利子でふやしてくれるボックス」

ではなくなっていて「お金の保管庫」になっているわけですね・・・

マイナス金利になってそれがさらに顕著になりました。

それで、今の「団塊の世代」の人たちは当時の高経済成長下における

高い金利を享受した世代なわけです。

だから100万円預けていたら翌年には110万円になっていた

わけですね。

ここに複利がかかる事を考えると

10年で100万円が250万円くらいにはなっていたわけです。

これ当然預金額がそのままということはないですから

新しい給料なりで増えていきますから

預金しておけば、そこでどんどん資産が増える構造ってのが

昔の日本にはあった、ということです。

これが団塊の世代の人たちの世代かもう少し上の世代の人たちの

時代でありまして、

それは預金数字が指数関数的に増えるわけだから

そりゃーお金持ち増えますよね？

例えば「ゆうちょ」に貯金しているじいちゃんばあちゃんは

日本に多いけど、定期10年利回りなんかは今だともう

すずめの涙です。

けど例えば1974年～1976年の定期預金金利なんかは

10%どころか12%です。

だから100万円置いていたらそれが1年で112万円に

なっていたわけでありまして。

だから高齢な方がブログに書いていたけど

「つまり私たち高齢世代は、

もらった給料を何も考えずに定期預金にするだけで

、それこそ「いつの間にか2倍になっていた」というレベルで

増えていく社会に長い間生きていたんですな。

だからゴミみたいな利子しか付かない時代を

長く生きてきた若い世代の人には、まず、

こういう時代があった(どころか、長く続いていた)ということを知って欲しいのです。  
」

ということでした。

だからまあ「定期金利で10%金利もらえるなら普通に人生変わるだろ」

ってことなわけですが、まあそうなんですね。

これすごくてそれこそ定期金利においておくだけで

資産がぼんぼん増えたわけですから、それはまあ今の高齢層に

富裕層が偏るのは当然といえば当然、なんですね。

これが日本の高齢層に「金融資産が非常に多い」理由の本質でしょう。

これ実は私も最初「ゼロ金利が当たり前すぎて」気づかなかったんだけど

海外に行って「金利3%つきます」みたいなのを普通に外国人に聞いて

「あ〜だまされた、これが本当の若い俺らが貧乏な理由じゃん！」と  
気づいたわけです。

一方、今の日本の若者はこの「お金を増えるボックス」を持っていない  
わけですね。

100万円頑張って貯蓄しました、となっても  
別に金利ほとんどつきませんから、そしてそれは ATM 手数料で消えるような  
金利ですからね、もう金利なんて今の人はないわけです。

だから昔の日本人は戦後復興もありまして、高度経済成長でしたから  
金利ってのがついたけど、今の若い人は「金利なんてない時代」に  
生きるわけだからそれはそれは貧乏になるに決まってる、といえます。

「**お金のボックス持ってる人以外は貧乏になるに決まってる**」

わけです。

だから昔の私も含め、当然多くのお金が増えることもなく  
毎日大変なわけです。

だからこの「**お金が増えるボックス**」を持つことがすごい

**大事で、そのために現代は勉強する必要があるということです。**

だから「ある程度の金融資産を持つためのハードル」というのは  
やはり少し昔と比べるとあがってるといえるわけで

多くの人はこの「お金を増やすボックス」を構築するために  
ネットビジネスとかFXとか株とかなんでもいいけど  
勉強するわけです。

ここに1年とかの時間を費やしてようやく「ボックス」が作れるわけだけど  
そのために色々な人に弟子入りして学ばないといけないわけであって

それは「定期金利10%とか7%とかついていた時代の人」にはなかった苦勞です。

だから今は大変な時代といえれば大変な時代である、とも言えますよね。

が、一方「感性するどく学んだり実践していけば」

年利10%どころか、月利で10%くらいは出せる時代でもあるから

おそらく「勉強しようとする人にとっては有利な時代」であるということだと  
思います。

ここで「月利10%でも20%でも増える仕組みを持つボックス」

をもてればあとは楽勝で

そこに毎月お金投入すれば、いいんです。

ちなみに今の時代は月利50%継続だとさすがに難しいけど

月利10%継続くらいだったらまあたぶん学べば誰にでも可能な状態では  
あると思うんですね。

それでその「ボックス」を作り上げて、そこにお金を投入していけば、  
要するに昔の人がどんどん収入を定期金利に回したようにお金を回していけば  
勝手に資産は増殖するわけです。

だから月利10%でもそのボックスが安定させれば  
10年、20年単位で見れば  
その人資産1億円くらいを富裕層といますが  
富裕層は確定なんですね。

これが世間で富裕層が生まれる仕組み、だと思います。

この「月利10%のボックスを安定させて、そこに消費せず  
残ったお金を投じていだけで」どんどんお金は増えるわけですから

だから実は月利50%なんて必要なくて月利10%で実はもう  
十分である、ともいえるわけですが、  
おそらく多くの方はここに気づいていません。

だって「月利100%」とかってやっぱり食いつく人多いですし  
みんな「短期視点」しか持っていないんですよ。

けど実は10%だけ、でそれが安定していればかなり十分なんですね。

あとは毎月そこに積み立て式でどんどん積み立てていって  
そしてそこに月利10%増殖がかかってくるわけだから勝手に資産は増えてくる

ということなわけです。

私は若いうちにこれに気づいていたのでラッキーだったと

と思いますが

これから頑張る人には知ってほしいな〜と。

そして今の時代は団塊の世代の時代のように、戦後世代のように

定期金利は5%10%つかないけども

実はいくらでもやり方あって

FXなんかでも日足でピンバーやエンゴルフインの検証すれば

「ああこうやってリスク抑えても月利10%くらいは出せるよね」って

分かるんです。

みんな検証していないだけ・・・

もしくは意味不明に焦って1時間足とか15分足でやるから

資金減らすんだけど、普通に月利10%でいいんだから焦らなくていいわけです。

検証すれば一応「自信」になるから、

それはパフォーマンスが出るようになるんです。

だから検証してくださいね、ってことなんですけど



なんで検証するかというと、この「ボックス」を持つためです。

月利10%のボックスが出来ればもう後は

毎月入ってくる収益があるけど

例えば税引き後可処分所得

月100万円の人ならば20万円で生活して

あとの80万円はその「月利10%増えるボックス」に

投入し続ければ結構早い段階(3年~5年くらい)

でいわゆる準富裕層になっていって、

そこから継続すると富裕層、超富裕層となっていくわけですね。

これが資本主義の金利がつく資本主義の構造ではあるわけです。

それがこの「お金のボックス」っていう私の音声の意味。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

韓国のソクチョで録音した

「お金のボックスの話」

<http://fxgod.net/onsei/business/moneybox.mp3>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

だから漠然と「稼ぎたいよ～～」なんてのは駄目で

「お金のボックスを構築する」というのを私は目標にしています

私の場合今このボックスが結構いくつかあるんですね。

この裏ワザなんかも加えますが、そうすると

「月利10%のボックスが複数あって分散できる状態」

になってくるわけです。

これ団塊世代の人の定期金利5%とか7%時代で言うと

その7%とかの定期金利預金口座を複数持ってる状態ですね。

ここに毎月消費を節約して、それで残りのお金

バンバン投入するわけだから

お金というのは数字概念で支配されるという脆弱性があるから

---

そこで当たり前のように増えていくわけですね！

こういう仕組み、お金が増えるボックスという概念を

いくつか この市場で持っておくとまあ

普通にお金には困らなくなるよね、ってことなんです。

ちなみにもう少し書くと

「現代の若者は低金利で損だ」という話を上で書いてるけど

これは「情報がない人は損だ」ということなんです。

例えばですね、マレーシアなんかだと定期金利で4%ついたり  
しますね。

これは交渉しないと3%だけど交渉すると4%以上ついたり  
するわけです。(ちなみに現地マレーシア人は7%つく！  
インドネシアも現地人は13%つくんです。知ってましたか。)

だからそういう外国を利用して、

相関性を理解して資金分散して為替差損を

防いで資金を増やすってことも今の時代は可能になってきている  
わけですね。

簡単に海外行ける時代ですから。

また若い人はネットが身近だからそういうネットの情報活用して

月利50%を安定は難しくても月利10%のボックスってのは  
簡単に作れると思いますから

それを作って、それで普段節約して、その10%のボックスに  
「毎月資金投入していく」ってことも可能で

実はこれをやり続けているのが新興富裕層の人たちです。

ちなみにこの「毎月お金が増えるボックスに資金投入する」ってのが  
超大事なんです。だから「毎月毎月出金したり振込みするから  
お金を動かすのが仕事」のように変わってきます。

お金を使うのが仕事、みたいになってそっちがある程度稼げるようになってくると  
忙しくなってきます。

んでそのお金を使うのが仕事、の意味は散財するわけではなくて  
「将来お金が増えるボックスに その月、週の収益を振り替えていく」  
ことですから、さらに将来それが増えていくわけですね。

今は銀行金利はつかないけども、色々な工夫をすれば  
この「お金が増えるボックス」は構築していくことが出来る時代  
でもあるわけです。

しかもネットの恩恵で色々な情報が出てきてますので  
定期金利の10%時代なんて超えるボックスを構築することも可能なわけで  
だから最近の「新興富裕層」はやたらお金持ってるわけですね。

彼らは月利30%以上増えるようなボックスを持っていたりするわけです。

ただ月利30%とかは本来必要なくて

月利10%でも十分なわけです。

お金の使い方は1消費2投資とあるのだけど

多くの方は100%消費、0%投資であります。

使い方としては。

これを10%消費 90%投資⇒すなわちお金が増える安定的なボックス

にお金を投入していくわけですね。

そしてボックスも出来れば複数もって管理できる限り複数持って

分散していく、って考え方をするわけです。

前の神崎さんがおっしゃっていた「リスクヘッジとしての分散」

ってのはそういう意味です。

とにかくそういうボックスを作り上げることが出来れば

お金の問題は解消できるということです。

ちなみに「なぜ散財しないか」という理由なんですが

例えば5年というスパンで考えます。

その「大体月利10%増えるボックス」がFXでもいいから出来たと

します。

そうなる、例えば10万円を散財した場合はどうかと考えるわけですが

もしその10万円をそのボックスにいれたとしたら

5年間＝60ヶ月間で複利で考えてしまうと

1. 1の60乗は結構やばくて

304倍になります。

単利でも6倍です。

(実際にはずっと複利ってのもないと思いますので

やはり単利と複利をかけあわせた数字ですが

それでも数十倍でしょう。)

ということは10万円のその資金は5年後に

ちゃんと検証しつつけてまわしていけば

数百万円～数千万円くらいにはなってるんだけど

その10万円の散財は将来の数千万円を使い込んでる

ってのと一緒なわけですね。

そう考えます。

安定して収益が増えるボックスを持ってる人

だから散財はあまり資産形成によろしくない、というところに

つながってくるわけですね。

だから今の時代の日本人の若い人は私も含めて

定期預金みたいなところがほぼ意味ないですから

そこから這い上がるために

「定期預金以外のお金が増えるボックス」

を構築することが必要でして

そのために勉強すると良いですよ、ということです。

この考え方は私の資産を実際増やしてくれているものなので

結構今の資本主義で通用する考え方かと思います。

それで神崎さんの場合はいろいろなボックスを持ってる人な

わけですが

そのうちのひとつが今回の某規制を使った裏ワザですよ

ってことですね。

こういうボックスをいくつか持っていると当たり前のように  
その人の資産は増える構造に現代はなっている  
ってことですね。

この「お金が増えるボックス論」ってのは私が  
貧乏派遣時代から這い上がるためにすごい考えて  
分かったことなんです

今でも貢献してくれてる考え方なので  
良かったら考え方まねしてください。

だからよく経済誌とかで  
「若者がなんで貧乏なのか？」ってところを書いてるけど  
記者もサラリーマンだから本質は付けていないんだけど

お金を自分で稼いでる人からしたら

「それはね 現代は金利がつかないから

現代人が

お金の数字を複利もしくは単利で

増やす構造、仕組みを持ってないからだよ」

ってことになるんです。



またもっと突っ込んで言えば今の

アジア新興国はどんどん富裕層が誕生していて道には

ベンツ BMW がたくさん走ってますよね？

海外に行ったことは自分の目で見てると思う。

これはやはりこれらの国では金利ってのがついていて

それが結構強力なわけです。

また日本だと「年利10%つきます」なんていったら「すげー」でしょうが

これが当たり前で「投資案件」なんかは

「年利30%つかないと認められない」となるわけです。

だって年利10%なら定期預金するよ、という話ですから。

だからいずれ今金利がついている国々から富裕層、中間層が

大量に誕生してくるから、自然とゼロ金利の日本の市民と

新興国の金利が付く市民で、必然的に生活レベルの逆転

資産の逆転が生じるわけです。数学的に。

それで日本の若者の多くは金利がつかないわけです。

これが実は多くの若者が貧乏な本質的な理由ですね。

が、この金利がつかないのが多くの若者の本質的貧困理由だ

となると困る人たちがおりますので語られないだけであるわけです。

なんでゼロ金利なんだ～～となると突き詰めると

某国の債券金融市場を延命させるためだ、って分かってきちゃう。

そのために自国の経済を犠牲にしている官僚機構の存在がある

って分かってきちゃう。

これもまた、日本以外の国に行けば

「定期金利5%！」とかそういう広告がやたらアジアには

ありますので(韓国でさえも年利3%の銀行の宣伝は結構あります、

私は最初それを見てびっくりした。)

そしてそういう国では富裕層が誕生していて

結構その姿を目撃するので

「なんだ、おれの母国で貧困層が増えてるのって

金利がつかないからじゃないか！みんなが

「お金増えるボックス構造」をもっていないからじゃん！」

って分かってくるわけですね。

これを富裕層たちは理解しているので

「お金が毎月増えるボックスを構築する重要性」

を経済構造を大きく俯瞰して、

「言語として」理解しているわけです。

なぜか？

というとお金というシステムはまあはっきりいうと

「数字概念で支配される脆弱性があるからだ」

ということです。

これが、実はピケティやマルクスなんか

書けなかった弱いところで

学者の限界だと私は思ってるんですね。

彼らは株主などの投資家に資金が還流する仕組みは書いたけど

富裕層たちが「お金を増えるボックス」という概念を使って資産を

複利を生かして増やしているというところをあまり言及していないように

思います。

特に当たり前であるけど当たり前すぎて気づかないこと

「お金というのは数字概念に支配されている脆弱性(ぜいじゃくせい)がある」

という本質を少し見落としている感じはするのですよね。

お金の本質として、数字概念に支配されるわけです。

1億円、とは言うけど、「大きいお金」としては扱われないわけですね。

あくまで1億円は1億円。9999万円は9999万円が違うものです。

そこに「あいまいさ」はないわけです。

数字という神学から来る概念を使っていて

「あいまいさ」がないわけで

1円、2円と計算するのがお金ってシステム。

ってことはお金ってのは

数字、数学、に冷酷に支配されるわけであって

また複利も禁止できないとなってるわけですね。

となるとお金の数字に 数学を利用した人が富裕層になる仕組み

なんです。

私は当時これを20代のころ気づいたのですが

実はここに本質があるわけですね。

んで金利が付いた時代はこのお金が複利で増える仕組みがあったから

単純に富裕層が増えましたよ、と。

今の時代は金利がゼロですから単純にそこに複利という数学概念を利用して(ある意味 数字概念の脆弱性を悪用?して)増やせる人が少ないから

単純に貧乏な人が増えましたよ、という単純な話です。

だから「お金というシステムは数字で支配される脆弱性がある」ということに気づいていない人が多いけど

もちろん言われれば「はっ」と気づくんだけど

そこに気づくと

「なーんだ、じゃあ毎月お金が増えるボックスを作り上げればお金の数字は増えるよね」

と分かってくるわけです。

物々交換時代ではこの考え方は通用しなかったと思いますが今の時代はそういうシステムで社会が動いておりますからそしてますます社会は「数字化」していますから、

まあ必然的にそこに気づいた人が富裕になっていくということですね。

実は富裕層ってのはこの

「お金ってのは数字概念に支配される脆弱性があるから

そこをつけばいい」って天性の才で気づいているわけです。

ちなみに天性の才がなければ言葉にして認識すれば「考える」ことで

その差は十分埋まるわけです。

だから書いています。

それで私は「安定的に月利10%増えるお金が増えるボックス」

と書いているけど、これ「掛け算」の考え方なんですね。

「安定的に月5万稼げるお金のボックス」じゃない、んです。

なぜか？というと毎月毎月である必要はないけどどうしても

「数字の脆弱性」をつかれないといけなくて、

「月数万円」だと「足し算」じゃないですか？

資産100万円の人が月5万円プラスと考えると

それはどうあがいても  $5+5+5+5\cdots$  の計算式から抜け出せないわけ。

1ヶ月に一回5万円があったとして人生変わるのか？って話ですが

あまり変わらないと思う。

一方それが100万円の資産が「月5%増やせるボックス」を持ったとします。

したらそれは $100 \times 1.05 \times 1.05 \times 1.05 \dots$ という乗数計算で増えていくわけですね。

これを資産構築に使いたいわけですね。

複利でお金増やすのは国家といえども禁止できませんから。

ちなみに毎月5万円が10年続いたとするとそれはトータルで10年が120ヶ月だから600万円。たった600万円です。

が、100万円の資産の人が同じく最初は5万円だけ

「5%増えた」と考えることで

それは変わるわけですね。

この考え方の人は $1.05$ の120乗 $\times 100$ 万円が10年後の資産になります。

大体348倍になるんです。

となると、「たった月利5%」でも

100万円の348倍だから10年間で3億円超えるわけです。

だから「5%なめるなよ」なんです。

ここで「勘」がいい人は気づいたでしょうか？ そうです消費税ですね。

これ、よく「消費税が始まって景気が後退した」ということが言われますし

これは実際統計データみても事実で消費税がはじまってからと  
景気後退は奇妙に連動はしているというのは事実としてあるわけです。

全部を消費に回すことはなかったとしても、  
税金で8%は持ってかれると考えられます。

これ「消費」という単位で考えると分からないけど  
「長期視点」で言うと結構怖いことなんですね。

その8%の総額は10年でいくらだろう？と考える人は少ないと  
思います。

いくら「お金を増やすボックス」を持っていてもそこから  
消費税がかかって、それで最後の最後に残ったお金に相続税とかも  
かかっていくわけでした

この「税のマイナス複利」ってのがすごい日本の場合は強いわけですね。

だから「日本の貧困化」ってこの辺が私はかなり影響していると  
見ているのですが

「増える額はほとんど複利がつかない」のだけど

「減る分は 算数の引き算もしくは乗数計算でマイナス複利」

がかかる状況になってるわけでした、それはもっと研究する価値がある分野ですが



それは貧乏な人が増えるのは当たり前といえます。

だって税金で取られるわけだけど、そのお金を  
「お金を増やすボックス」に回せないわけですし

だからお金を増やす機会も失われます。

だから日本の場合には「税金などによる引き算、もしくは  
資産に掛かる税金などの乗数計算分のマイナス」

でマイナスがかかるけど、それを挽回するほどの  
プラスが必要という状況です。

そして不思議なことにこの辺のメカニズムは全然研究されない・・・  
というおかしさがあります。

これはまあこのレポートの主題じゃないので今日は書きませんが。  
だからやはり富裕層なんかは資産形成が大事だと分かっているから  
税制面なんかを考えて海外に行く人は結構いるということですね。

だから、今の日本人にとってはまず「昔あったような10%の定期金利」  
なんて存在しないわけだし、  
そうすると「お金が定期的に乗数的に安定的に増える仕組み」  
を自分で構築する必要性が出てきているということです。

これに気づいている人が今どんどん新興富裕層になっているし

これに「ゼロ金利」という言葉で気づいてはいるけど

「認識」できていない人に関しては「なんでだろう、どんどん貧乏になってるよ」

ということなんです。

んで、最近の日本人ですが、

「月5万円」という表現のほうが「月利5%」という表現より

「しっくり」くるようになってるんですね。

これはどういうことか？というと

「資産を増やすことについて 足し算でしか考えられない人が増えてきた」

ということです。

これはゼロ金利という不健全状態がそういう国民性を育て上げたのだろう

と思います。

昔の世代はおそらくですが資産形成について「掛け算や乗数」を使っていた

のですね。定期金利なんか組んで。

この辺の資産に人々が適用する数学が「昔は乗数だったけど

今は足し算」と退化しているわけです。

足し算だと堂々巡り。乗数だと分かりやすくいうと「雪ダルマ式」で

数字は増えるけど、今は「堂々巡り」の考え方が主流になってしまったわけです。

衰退国家の悲しい状況です。

ただ、「今から豊かになって人生変えたい」という人は

必ず乗数の思考方法を持つ必要があるし

「お金が安定的に月利10%増えていく仕組み」を構築する必要が

あるわけです。

別に10%じゃなくても5%でもいいんですね。

そして重要なのがそこに「複利」をかけたいわけで、だから

「安定性」がほしいわけです。

その「安定性」を得るためには月利10%のボックスが複数あったとしたら

それぞれをより安定的になるように工夫が必要だし

またそのボックスを「管理できる範囲で」ある程度増やして

分散する、という考え方も必要なわけですね。

それぞれのボックスによって「市場規模」とか「カントリーリスク」とか

「賞味期限」色々あると思うんです。

そこを分散してヘッジしていく、ということです。

これを富裕層の人たちは行っているわけですね。

こういうボックスを多く持つてると富裕層になりやすい

そういう傾向が強い、という話です。

今回のお金が安定的に月利10%とかで増えるボックス、を持つ

って話はすごい大事です。学校で教えてくれないけど

文字通り私の人生を変えた考え方でもありますから、

ぜひ参考にしてください。

定期金利10%時代が来ないなら自分で工夫して

それと同じ作用をするボックス、自分なりのシステムを作ってしまうといい

ということです。

強引さは重要。

そのための投資やビジネスの勉強だったりするわけですね。

こうやって資産形成だったらなるべく俯瞰(ふかん)して

それで戦略を立てていくとやはり学び方とか実践の仕方も変わってくる

わけですね。

それではまた！

ゆう

追伸・・・ちなみに全てのビジネスにはサイクルがあるわけです。

1導入期 2成長期 3成熟期 4衰退期ですね。

「お金が増えるボックス」で月利10%書いてますが

当然ビジネスだと1導入期や2成長期というのが月利が高くなる傾向で

成熟期、衰退期に入ってくると全体の傾向として月利が低くなる傾向です。

これは国でも一緒ですね。経済成長率というのを見ると国も

大きくはこのサイクルがあるって分かってきます。

大きく資産を作りたいとなれば、やはり投資の利率が高い案件ってのは

成長期とか導入期の国やビジネスになるわけでビジネスの場合は利率は

この辺を考えないといけないな、って分かってきますよね。

一方投資スキルってのはこの辺のサイクルに影響されづらい

というところが強いわけです。

FXでも株でも色々な通貨ペアだったり銘柄があるわけで

世界中の株も扱えるようになってきているし、

海外なんかも昔と比べてすごい安く行けるようになってるし

そういう意味では知ってる人にとっては結構すごい時代なのかなと

思います。

これから FINTECH とかも進んでこれば国際銀行間送金とかの壁も

低くなって、より上の「お金を増やすボックス」を構築しやすくなるかも

しれません。

そういう意味ではすごい時代であるということです。

若者は高齢者がお金持ってることに対して「老人から金をとれ」と叫び

高齢者は「最近の若者は」と揶揄するわけですが

若い人は定期金利がない代わりにやる気あればいくらでも

「お金を増やすボックス」を作り上げられるわけでそれは昔にはなかった

環境だし、

一方高齢者の人は今の若者が持っていない高い金利時代を経験した人も

多いでしょうが、今の若い人みたいにネットでお金を増やすボックスを自分で

作るという機会には恵まれていなかったとは思いますが

その辺でアッパーは限られていたかもしれません。

だから実はそれぞれ一長一短かもしれません。

「今の時代は定期金利がつかない、最悪だ！」と嘆くのは簡単ですが  
実はちょっと視点を変えればネットを通じてそういう構造はそこまで  
苦勞せずとも作り上げられるわけであって

そういう意味では「勇気さえあれば」

チャンスがある時代である、とも考えられますね。